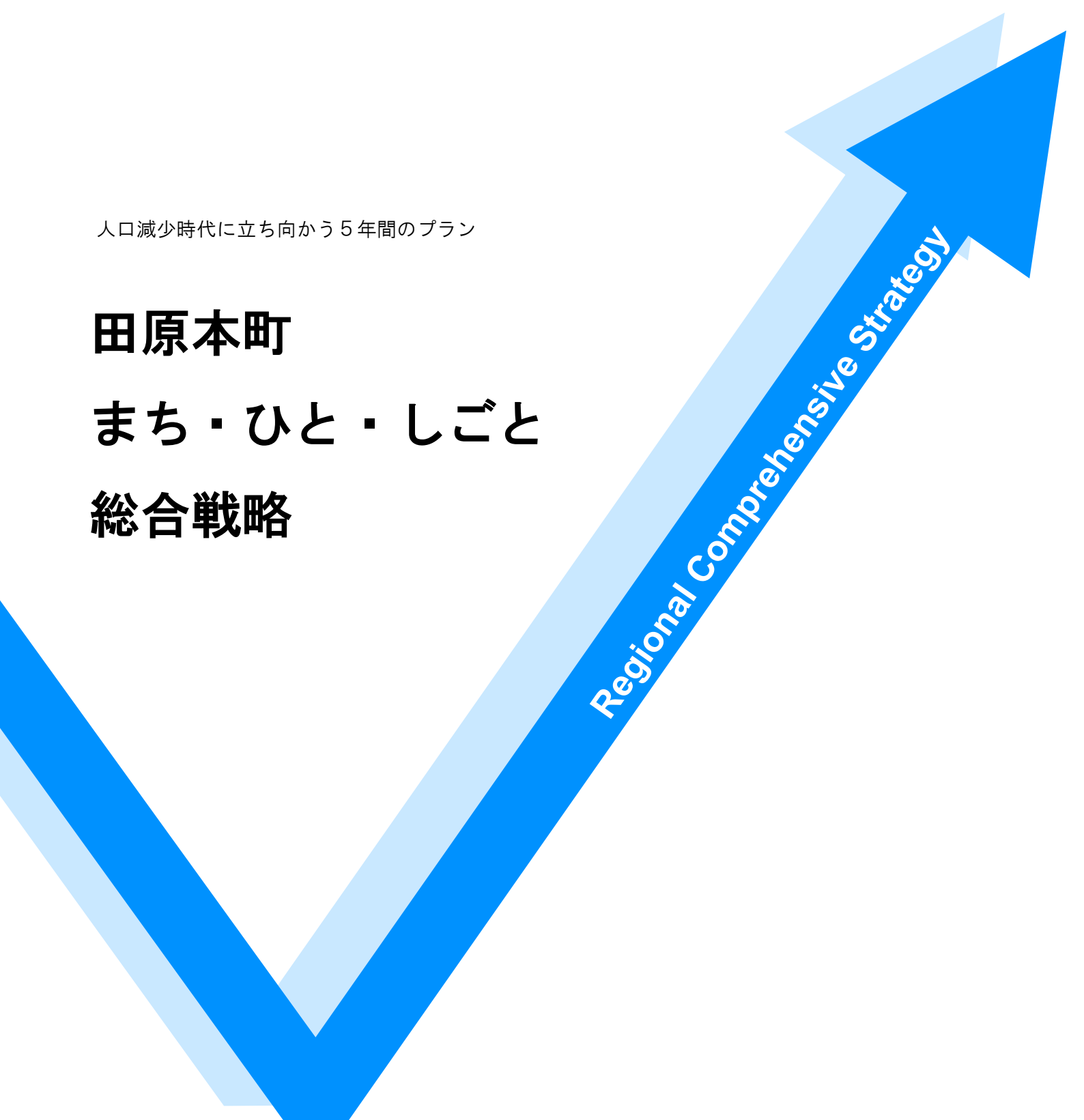


人口減少時代に立ち向かう5年間のプラン

田原本町 まち・ひと・しごと 総合戦略



Regional Comprehensive Strategy

目次

第1章 田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け……………	1
第2章 基本目標……………	4
第3章 基本目標の実現に向けた具体的な取り組み……………	6
1. 田原本町に住み続けることができる働く場を創る……………	6
(1) 事業者にとって魅力的なまちにする	
(2) 資源を最大限に活かした産業を育む	
(3) まちのブランド化につながる産業を育む	
2. 田原本町への新しいひとの流れをつくる……………	10
(1) 若い世代が定住しやすい住環境を整備する	
(2) 豊かな歴史資源を活用する	
(3) 田原本町の魅力を発信する	
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる……………	13
(1) 就労・結婚・出産を希望する若者を応援する	
(2) 子育て環境の充実をはかる	
(3) 田原本町らしい教育環境を創る	
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、 地域と地域を連携する……………	16
(1) 地域コミュニティの強化をはかる	
(2) 誰もが安心して暮らせるまちをつくる	

第1章 田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

○総合戦略策定の背景

我が国の人口は、明治以降、一時的に苦難の時期はあったものの急激に増加しましたが、1970年代後半以降、合計特殊出生率は急速に低下し、人口規模が長期的に維持される水準（「人口置換水準」現在は2.07）を下回る状態となっています。また、2008年をピークとして人口減少局面に入っており、今後人口減少は加速的に進み、現在の約1億2,700万人（平成27年7月概算値）から、100年後には5,000万人を切るという推計も示されています。これに加え、地方の若い世代が過密で出生率が極めて低い東京圏をはじめとする大都市部へ流出することにより、日本全体の少子化、人口減少につながっています。

この現状と将来の姿に対し、国においては、日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及びこれを実現するため、今後5か年の目標や施策、基本的な方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がとりまとめられました。

○人口ビジョンからみる本町の現状

【田原本町について】

本町は、奈良盆地の中央部に位置し、町の東部を大和川、中央部を寺川、西部を飛鳥川、曽我川がそれぞれ北流し、これらの河川にはさまれた平坦地として形成されています。歴史の国、大和の中でもっとも早くから拓けたところで、弥生時代の大遺跡「唐古・鍵遺跡」など数多くの文化遺産があります。その後は水陸交通の要衝の地として栄え、江戸時代には「大和の大坂」といわれるほど商業が盛んとなりましたが、昭和31（1956）年の町村合併で田原本町が誕生した際には基本方針として農業立町が掲げられ、全国でも稀にみる集約的な農業が営まれました。

その後、昭和42年頃から住宅地の造成が活発になり、大阪方面への通勤者も増えて郊外住宅都市としての性格を強めながら、平成17年には3万3千人を超える町に成長しました。

【人口ビジョンからみる本町の現状】

人口ビジョンにおける分析から本町の人口の動きをみると、郊外住宅都市として着実に人口増加を果たしてきましたが、年々その伸び率は鈍化の一途をたどり、近年は少子高齢化の進行により、死亡数が出生数を上回り自然動態がマイナスとなる一方で、転出超過による社会動態のマイナスの傾向が続いており、平成17（2005）年の33,029人をピークに人口減少に転じています。

さらに、団塊の世代とその子ども世代が多く、その後の世代の人口が少ないため、今後30年以上にわたり高齢者の割合が増加するとともに、人口減少が大きく進むと予想されます。

これらの現状から、今後の社会動態のマイナスを食い止め自然動態のマイナスを最小限に抑えるため、継続的な取り組みが必要となります。

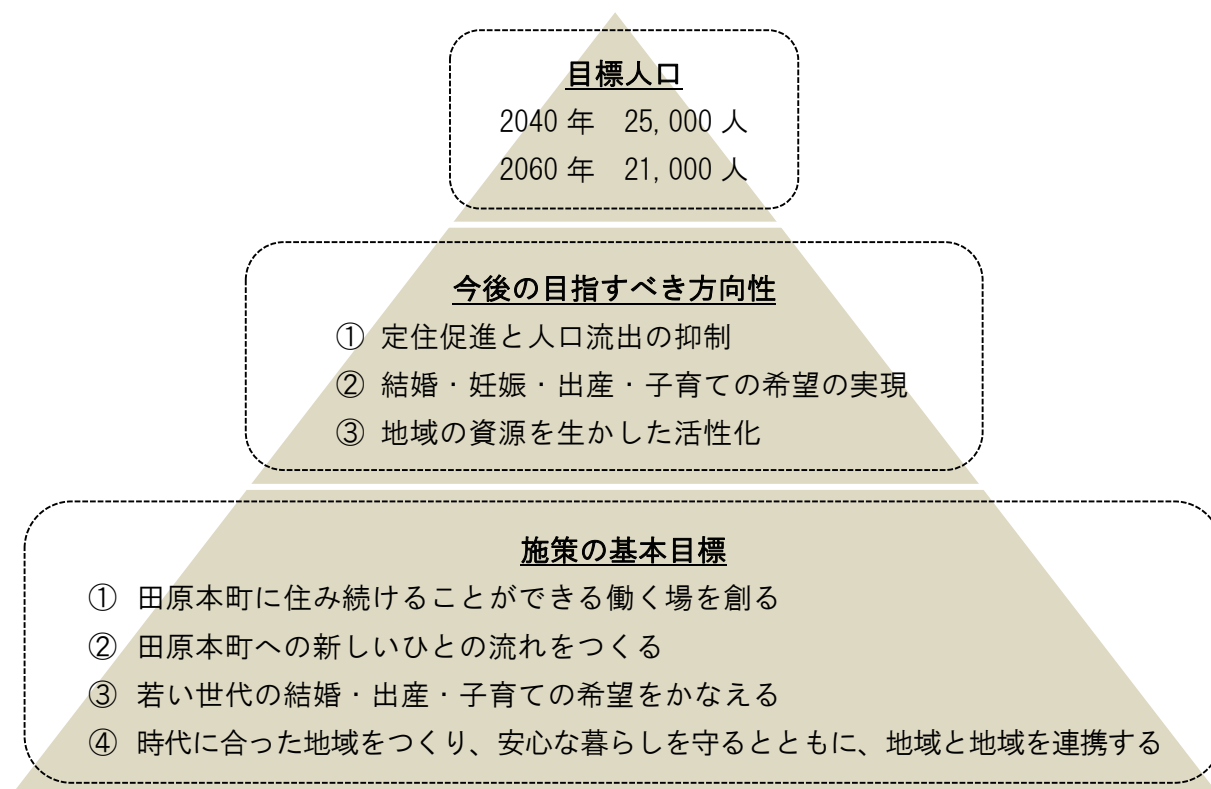
○総合戦略の位置付けと趣旨

【位置付け】

田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、国の長期ビジョン及び総合戦略の基本的な考え方に基づき、本町の人口ビジョンを踏まえ、本町の現状や課題を整理するとともに地域課題の解決や活性化施策等を位置付けるものです。

【基本的な方向性】

本町の人口ビジョン及び総合戦略の掲げる基本的な方向性は、以下のとおりです。



【具体的な施策と客観的な指標】

上記の基本目標に沿い政策分野ごとに具体的な施策を定めます。併せて、各施策の効果を客観的に検証できるようにするため、施策ごとに、客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定します。また、KPIにより施策の効果を検証し改善を行うしくみ（PDCA サイクル）を導入し取り組みの見直しや改善を行います。

【計画期間】

平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間とします。

○総合戦略の実施に向けて

総合戦略の策定や着実な実施に向けて、住民や産業、学術、金融、労働等のさまざまな分野の知恵と力を結集して取り組むこととし、田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を設置します。本委員会では、総合戦略に位置付けた内容を多様なメンバーによって検討し、取り組みの実施状況や成果目標の達成状況について検証し、その結果に基づき、取り組みの見直しや改善を行います。

本町は、住民や関係機関と連携し計画的に施策の展開を図るとともに、社会経済情勢の変化や施策の状況を確認し、本委員会の意見を踏まえ、必要に応じて総合戦略の改訂を行います。

第2章 基本目標

1. 田原本町に住み続けることができる働く場を創る

安定した雇用を創り出すことは、産業の振興だけでなく、人口を維持し地域の活力を持続的に生み出すことにつながります。田原本町では、近年、事業所数や従業者数、商業販売額等が減少傾向にあり、雇用の拡大につながる施策の展開が必要です。

本町は、京奈和自動車道の（仮）田原本インターチェンジ周辺を中心とした企業誘致をはじめ、町内に立地する企業の支援等を行い、また、商業や農業等での創業やブランド化をはじめとした振興を図り、多くの人が働き住み続ける活力のある田原本町を目指します。

2. 田原本町への新しいひとの流れをつくる

全国的に人口減少と少子高齢化が進行していますが、本町でも近年、主に 30～40 歳代の転出超過により社会動態がマイナスとなる傾向が続いており、定住・移住を促進し、転入の増加と転出の抑制を図ることが必要です。併せて、まちの魅力に磨きをかけて交流人口を増やすことで、まちのにぎわいの創出を目指します。

本町は、「唐古・鍵遺跡」をはじめとする数多くの歴史資源があり、これら地域資源を有効に活用し情報発信を行うことで、観光振興等による交流人口の増加、さらに雇用の拡大や住宅支援等により定住意欲を喚起し、本町での暮らしの魅力を高めることで、多くの人々が何度も訪れたくなる、住みたくなる田原本町を目指します。

3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

全国的に晩婚化や未婚化が進み、合計特殊出生率の低下がみられますが、本町も例外ではなく合計特殊出生率は人口を維持する水準を大きく下回っています。将来のまちを支える人を増やし、まちの活力の維持につなげるために、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を実現させることが必要です。

若い世代が安心して働ける質の高い雇用を生み出し、暮らしの安定を図るとともに、結婚への願いをかなえる取り組みや結婚から子育てへの切れ目のない支援、ニーズに応じた保育や教育環境の充実等により、結婚・出産・子育てへの道を開き、さらには、若者が地域で活躍する機会を通して地域への愛着心を醸成し、若い世代が結婚や出産の希望を実現できる田原本町を目指します。

4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

より多くの住民が田原本町に住み続けていくためには、安全で安心して快適に暮らすことができる環境を整えることが必要です。本町では、より良いまちづくりを目指したさまざまな取り組みが展開されていますが、これらの取り組みの継続・発展により、コミュニティの活性化を促すことも求められます。

各地域拠点の充実、地域同士を結ぶ道路や公共交通等の強化、また、まちづくり活動への支援によるコミュニティの活性化等の取り組みを進め、誰もが安心して暮らせる豊かな田原本町を目指します。

【総合戦略の施策体系】

1. 田原本町に住み続けることができる働く場を創る	(1) 事業者にとって魅力的なまちにする
	(2) 資源を最大限に活かした産業を育む
	(3) まちのブランド化につながる産業を育む
2. 田原本町への新しいひとの流れをつくる	(1) 若い世代が定住しやすい住環境を整備する
	(2) 豊かな歴史資源を活用する
	(3) 田原本町の魅力を発信する
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(1) 就労・結婚・出産を希望する若者を応援する
	(2) 子育て環境の充実をはかる
	(3) 田原本町らしい教育環境を創る
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	(1) 地域コミュニティの強化をはかる
	(2) 誰もが安心して暮らせるまちをつくる

第3章 基本目標の実現に向けた具体的な取り組み

1. 田原本町に住み続けることができる働く場を創る

数値目標	基準値	目標値
町内事業所従業員数	11,916 人 (H26)	11,748 人 (H31)
誘致企業数	7 件 (H26 までの延べ件数)	15 件 (H31 までの延べ件数)
商工会加盟事業者数	578 人 (H26)	528 人 (H31)

(1) 事業者にとって魅力的なまちにする

平成 8 年以降、町内の事業所数、就業者数はともに減少傾向にあります。そのため、雇用の維持・創出のため、本町の立地を活かした企業誘致や町内の中小企業の育成、支援を図ります。

また、商業の活性化は雇用創出のみならず、郊外都市としての町の魅力の維持にも寄与することから、既存店舗を支援するとともに、新たに出店する者が魅力を感じるようなまちづくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
駅前空き店舗解消数	1 件 (H26)	3 件 (H31 までの延べ件数)
中小企業資金融資件数	41 件 (H26)	50 件 (H31)

① 雇用創出の視点からの企業誘致、中小企業支援

- ▶ 県や関係機関との連携を図り、積極的に企業訪問を実施し、企業誘致の推進を図ります。
- ▶ 町内中小企業に対する融資制度を定め、町内金融機関を通じて中小企業融資を行います。
また、今後も引き続き、中小企業融資制度を維持しながら金融の円滑化を促進し、中小企業の経営の安定化、設備投資に関する支援の充実を図ります。
- ▶ 経営・経済に関する諸問題についての講習会や研修会などを通じて人材を育成し、商工会との連携を強化し、中小企業の経営基盤の強化を図ります。

② 都市の生活利便性向上の視点からの商業活性化

- ▶ 商業の振興と安定を図るため、商工会が実施する事業を支援します。

③ 都市魅力向上の視点からの駅前活性化

- ▶ 駅前広場南側地域については、平成 22 年に「田原本駅前南街区基本計画」を策定しました。地権者の事業に対する意識を確認しながら、再開発の合意形成の熟度を高め事業の推進を図ります。
- ▶ 駅前広場の整備や市街地再開発事業に取り組んでいる田原本駅西側だけでなく、東側も含めた駅前周辺のにぎわい創出に向けて駅前全体の「まちづくり」を総合的に検討します。

【主な事業】

- 企業等の誘致・立地推進事業
- 中小企業資金融資事業
- 商工振興対策事業
- 駅前活性化事業
- 田原本駅周辺市街地整備推進事業



田原本駅前周辺で行われている「やどかり市」。既存店舗や空き地を活用した出店でのにぎわいを創出

(2) 資源を最大限に活かした産業を育む

本町の農地は町域の 5 割超を占め、また歴史資源と調和する田原本町らしい田園景観を形成する貴重な資源です。農業は本町の主要な地域産業の一つである一方、農業就業人口の減少・担い手不足、高齢化の進行により、今後耕作放棄地の増大が懸念されるなど多くの課題に直面しています。

農業経営の生産性と効率性を高めることにより、土地の保全と有効活用を図るとともに雇用を創出します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
新規就農者数	4 人 (H26)	10 人 (H31)
集落営農組織数	1 組織 (H26)	2 組織 (H31)
農業制度資金活用件数	3 件 (H26)	5 件 (H31)
推進する作物の耕作面積	0.5ha (H26)	1.5ha (H31)

① 農業の担い手の育成・支援

- ▶ 農業の担い手育成のため、子弟による経営継承者や新規就農者への支援を行います。担い手を認定農業者、法人化へと誘導します。
- ▶ 農業集落における集落営農組織の設立に向けた取り組みを推進します。
- ▶ 農業者に対し、最新式農業機械の購入及び農業施設の新設・増設を支援します。

② 農産物の高付加価値化

- ▶ 農業者に対し、付加価値の高い作物の生産へと誘導します。

【主な事業】

- 担い手支援・育成事業
- 農業担い手への集積事業
- 農業制度資金貸付事業
- 農業振興推進事業
- 水田農業構造改革対策事業



柔らかい泥の感触を楽しみながら、手植えを体験する



農業祭で新鮮な地元の農産物を買求める人々

(3) まちのブランド化につながる産業を育む

田原本町で生産される農畜産物や特産品のブランド化は、商品の高付加価値により産業振興に資するとともに、町のブランドイメージの向上につながる点からも重要です。

そのため、田原本町のブランド化につながる農畜産物、特産品の生産を促すとともに、町内外への周知などブランド化を支援します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
県で認定された大和野菜の生産品目数	1 件（H26）	2 件（H31）
「楼閣くん」の商標利用件数	—（H26）	10 件 （H31 までの延べ件数）

① 大和野菜等、ブランド力の高い野菜の生産の促進

- ▶ 大和野菜等、ブランド力の高い農産物の生産の促進を行います。

② 農畜産物・特産品の周知

- ▶ 農産物直売所や新たに整備される道の駅、ウェブサイト、ふるさと応援寄付金のお礼品等を活用し、田原本町の農畜産物、特産品を町内外に周知します。

③ 唐古・鍵遺跡等の歴史資源を活用したブランドづくり

- ▶ 唐古・鍵遺跡のキャラクター「楼閣くん」などのキャラクターや弥生時代のデザインを町や民間事業者が利用することにより、ブランドづくりに生かします。

【主な事業】

- 水田農業構造改革対策事業（再掲）
- 「楼閣くん」商標登録事業
- ふるさと応援寄付事業



本町で初めて大和野菜に認定された味間いも



唐古・鍵遺跡で出土した絵画土器



唐古・鍵遺跡キャラクター「楼閣くん」

2. 田原本町への新しいひとの流れをつくる

数値目標	基準値	目標値
社会増減数 (転入者数－転出者数)	△183 人 (H26)	△99 人 (H31)
観光入込客数	19,116 人 (H26)	422,000 人 (H31)

(1) 若い世代が定住しやすい住環境を整備する

田原本町は大阪都心に通勤可能な利便性の高いベッドタウンとして発展してきました。この強みを生かし、本町の出身者をはじめとした若い世代が定住しやすい住環境を整備します。

また、駅周辺においては新たに宅地化できる土地が限られていることから、空き家の活用を促すとともに、町内の交通環境の改善を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
三世代同居・近居促進（住宅改修等補助） 事業の利用件数	— (H26)	10 件 (H31)

① 三世代同居・近居の促進

- ▶ 田原本町外に住む子世帯が町内に転入し、親と近居または三世代同居を始めるための住宅取得・リフォーム等を支援します。

② 空き家となった住宅の利活用の促進

- ▶ 一戸建て空き家住宅については、NPO 法人による空き家バンク等の活用を促進します。

③ 大阪都心のベッドタウンという強みを生かした定住促進

- ▶ 田原本駅前広場の南側地区において、市街地再開発を推進します。

【主な事業】

- 三世代同居・近居促進事業
- 空き家対策事業
- 交通対策事業
- 田原本駅周辺市街地整備推進事業（再掲）

(2) 豊かな歴史資源を活用する

唐古・鍵遺跡に代表される田原本町の豊かな歴史資源や歴史的な景観は、住民に地域への愛着を醸成するとともに、町のブランドイメージの形成に寄与しています。

このような歴史資源が多くの人々の目に触れるよう整備・発信することで、町の魅力を向上するとともに、あわせて観光資源化を進めることにより、交流人口の拡大を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
唐古・鍵遺跡史跡公園の来場者数	—（H26）	40,000 人（H31）
唐古・鍵考古学ミュージアム入館者数	9,116 人（H26）	12,000 人（H31）
他自治体や民間などと連携した観光等の歴史イベントの実施回数	2 件（H26）	5 件（H31）

① 唐古・鍵遺跡史跡公園、ミュージアムの充実

- ▶ 唐古・鍵遺跡史跡公園を歴史・自然学習の場、憩いの場として整備するとともに、唐古・鍵考古学ミュージアムをリニューアルし、展示を充実させます。
- ▶ 唐古・鍵遺跡史跡公園の管理運営など、さまざまな活動に協力する住民ボランティアを育成し、地域への愛着を醸成します。

② 田原本町の歴史・文化的な観光資源の魅力を知ってもらうイベントの実施

- ▶ 町には、唐古・鍵遺跡に始まり、壬申の乱に関係する村屋神社、太安万侶ゆかりの多神社など多数の遺跡や寺社があります。また、戦国時代には賤ヶ岳七本槍の一人として名をあげた平野権平長泰が田原本の領主となり陣屋町が形成され、当時の街並みは今も面影を残しています。これらに加え、地域に受け継がれてきた伝統行事など、歴史・文化的な観光資源の魅力を知ってもらい、訪れてもらうため、周辺自治体やボランティア団体などの民間等と連携した各種観光イベントの実施や PR・誘客の推進を図ります。

③ 観光客の交通利便性の向上

- ▶ 町内の観光資源を巡る観光乗合タクシーを運行するとともに、町内の観光ルートの開発を促進します。
- ▶ 田原本町観光レンタサイクルを活用し、観光客の町内の回遊を促します。

【主な事業】

- 唐古・鍵遺跡史跡公園整備事業
- 唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業
- 唐古・鍵遺跡史跡公園ボランティア育成事業
- 観光振興対策事業
- 周辺自治体との観光連携事業
- たわらもと観光乗合タクシー運行事業



唐古・鍵遺跡にそびえ立つ復元楼閣



端午の節句にちなんだ行事「蛇巻き」。田植え時の降雨を祈願したものと考えられ、国指定文化財に指定されている（左：今里、右：鍵）

(3) 田原本町の魅力を発信する

唐古・鍵遺跡史跡公園の開園にあわせて、隣接地に地域での交流及び活性化を促進する憩いの場として、道の駅の整備を進めます。

また、道の駅を観光資源として交流人口の拡大を図るとともに、自然、歴史・文化、食と農など、田原本町の魅力を発信する拠点とします。

また、田原本町の魅力や町の取り組みなどを町内外の方に発信するしくみを整備し、総合戦略の目標の早期実現を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
道の駅の来場者数※	－（H26）	400,000 人（H31）
奈良県広報誌・新聞・フリーペーパー等 を活用した発信件数	14 件（H26）	20 件（H31）

※レジ通過者数

① 唐古・鍵遺跡史跡公園と連携する道の駅の整備

- ▶ 現在、唐古・鍵遺跡史跡公園を計画的に整備しています。史跡公園として、弥生時代の風景を復元するとともに、その時代の生活を体感できる公園を目指します。
- ▶ 唐古・鍵遺跡等の歴史的空間や自然環境の保全と活用など、特色を活かした人・もの・情報の交流拠点「道の駅」の整備をします。

② 道の駅を活用した田原本町の魅力の発信

- ▶ 地元の事業者、農家、学校等と連携し、田原本町の魅力を発信し、商品・サービスの提供、イベントを実施します。
- ▶ 町内の観光スポットや伝統行事等をはじめ、中南和観光の玄関口として道の駅が機能するよう、周辺自治体の観光情報もあわせて発信していきます。

③ 町や地域の取り組みの発信

- ▶ 町の魅力や取り組みを奈良県内の広報・新聞・フリーペーパー等を活用し、情報発信をします。
- ▶ SNS の活用など、広報手段を増やすとともに、住民等の意見や感想を収集し、取り組みの改善につなげます。
- ▶ スマートフォンやタブレット端末など多様な情報通信機器に対応し、町のサービスについて、検索しやすいウェブサイト構築に努めるとともに、町内外に向け、魅力ある情報を発信していきます。

【主な事業】

- 唐古・鍵遺跡史跡公園整備事業（再掲）
- 道の駅整備事業
- 広報・広聴事業
- 地域の魅力発信！まちの知名度アップ事業
- 情報発信機能高度化事業



歴史・自然学習の場、憩いの場として工事が進んでいる唐古・鍵遺跡史跡公園。図は公園のイメージ図

3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.47 (H25)	1.59 (H31)

(1) 就労・結婚・出産を希望する若者を応援する

少子化の進行にはさまざまな要因がありますが、基本方策を、若者が自らの希望に基づき結婚し、子どもを産み、育てることができるような社会をつくることとし、行政として可能な支援を行います。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
雇用促進奨励金の交付対象となった従業員数	1 人 (H26 までの延べ件数)	10 人 (H31 までの延べ件数)
新規就農者数 (再掲)	4 人 (H26)	10 人 (H31)
一般不妊治療助成の実施件数	— (H26)	35 件 (H31)

① 町居住・町出身の若者の就職支援

- ▶ 町内に新設・増設・移転する企業に対し、町内居住者の雇用を促進するため、奨励金を交付します。
- ▶ 青年就農給付金を利用し新規就農者の掘り起こしと育成を行います。

② 若者世代の活発な交流の促進

- ▶ どんろこバレーなどの住民同士が交流できるイベントに男女の出会いのきっかけとなる場を提供します。また、田原本町に住む若者などが参加できる婚活パーティーを開催します。

③ 不妊に悩む夫婦への支援

- ▶ 不妊に悩む夫婦に対し、専門職による不妊の相談を実施、また、不妊治療に要する費用の一部を助成し、経済的負担の軽減を図ります。

【主な事業】

- 企業等の誘致・立地推進事業 (再掲)
- 担い手支援・育成事業 (再掲)
- たわらもと婚活パーティー事業
- 一般不妊治療助成事業
- 特定不妊治療助成事業



どんろこバレーで交流。同時開催イベント「どんろこ恋活」で男女のカップルが誕生するかも

(2) 子育て環境の充実をはかる

本町において、一人の女性が一生に産む子どもの平均数を意味する合計特殊出生率は 1.47（平成 25 年）であり、国民の希望がかなった場合の出生率とされる希望出生率 1.8 を大きく下回っています。

若者が希望どおりに子どもを産み、育てられるよう、子どものいる世帯、特に多子世帯の子育ての経済的負担の軽減や、共稼ぎ家庭の事情に応じた保育環境の整備等を行います。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
多子世帯の保育所利用者数	86 人（H26）	74 人（H31）
地域子育て支援センター利用者数	9,376 人（H26）	10,171 人（H31）

① 子育ての経済的な負担の軽減

- ▶ 児童手当等の制度や子ども医療費の助成等、子育てに伴う経済的負担の軽減を図るための制度の周知を行います。
- ▶ 保育所の利用料について、多子世帯、ひとり親家庭や障がいのある方などの世帯の減免を実施するとともに制度の周知を行います。

② 保育サービスの充実

- ▶ 町立幼稚園の在園児対象の一時預かり事業を実施します。
- ▶ 2 歳未満児の保育にあたり、保育士の配置を充実させ、乳幼児及び保護者に対して安心して入所できる環境を整備します。
- ▶ 放課後、家庭に保護者のいない子どもが、集団生活の中での遊びや生活を通じて豊かな人間性を育むことができるよう、学童保育を小学校 6 年生まで引き続き実施するなど学童保育の充実・拡充に努めます。また、関連機関等との連携により、放課後児童の総合的な対策の推進を図ります。

③ きめ細やかな子育てサポートの実施

- ▶ 妊婦健診、乳幼児健診、訪問事業等により、産前・産後のサポートを充実させるとともに、育児相談や子育て情報提供を通じて、安心して妊娠～出産・子育て期に継続的な支援を受けられる環境づくりを進めます。

【主な事業】

- 子ども等医療費助成事業
- 保育所利用料多子軽減事業
- 妊産婦・乳幼児健康管理事業
- 放課後児童健全育成事業
- 育児支援ヘルパー派遣事業
- 子育て世代包括支援事業
- 児童相談援助事業

(3) 田原本町らしい教育環境を創る

町の将来を担う子どもたちが充実した教育を受けることができ、一人ひとりの能力と個性を伸ばせる環境の整備に取り組むとともに、地域・歴史の学びと体験を通じて、子どもたちの地域への愛着を醸成します。また、経済的理由により子どもの就学が困難な世帯の支援を行い、子どもたちに等しく教育環境を提供するとともに、子育てに対する経済的負担への不安を解消します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
町立幼稚園就園率	48.4%（H26）	53.0%（H31）
おはなし会への参加者数	922 人（H26）	1,000 人（H31）
地域・歴史の学び学習実施学年	1 学年（H26）	3 学年（H31）

① 子どもたちの豊かな人間性の育成

- ▶ 幼稚園において、幼児一人ひとりの個性を伸ばし、個々の発達段階に応じた教育を充実させ、いきいきと活動できる幼児教育を推進します。
- ▶ 小・中学校の児童・生徒が将来を見据え、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、意欲的に学習に取り組むことができるよう教育内容や教育環境の整備に努めます。
- ▶ おはなし会等の行事、図書館見学・1日図書館員・職業体験等、多様な活動により、子どもたちの読書を啓発します。また、ボランティアを育成し、ともに子どもの読書活動を推進していきます。

② 地域・歴史の学びを通じた、子どもたちの地域への愛着の醸成

- ▶ 唐古・鍵遺跡史跡公園を活用した小学校向け副教材を作成し、田原本町で育つ子どもに地域の歴史・文化を学習する機会を提供するとともに、地域への愛着を醸成します。
- ▶ 図書館のふるさと図書コーナーでは、子どもでも親しめる本や絵本・学習漫画を中心に古事記に関連する本などを設置しており、郷土の歴史を学ぶ機会を増やします。
- ▶ 小学生が遊びながら郷土を学べる学習教材として田原本ふるさとかるたを小学校1年生に配布し、地域の歴史資源や名所を学ぶ機会を増やします。

③ 経済的理由により就学が困難な児童・生徒・保護者の支援

- ▶ 町立幼稚園の保育料について、多子世帯の減免を実施するとともに制度の周知を行います。
- ▶ 経済的理由により就学が困難な児童・生徒・保護者に対し、教材及び給食費や学用品購入費等を給付します。
- ▶ 私立幼稚園（子ども子育て支援制度に移行しない幼稚園に限る）に通う幼児・保護者に対し、保護者の所得に応じた補助を行います。

【主な事業】

- 幼稚園運営事業（一部）
- 子ども読書活動推進事業
- 唐古・鍵遺跡史跡公園教材活用事業
- 幼稚園教育振興事業
- 小学校教育振興事業
- 中学校教育振興事業



田原本の太古の昔から、古代、中世、近代と続く歴史と文化を学ぶことができる「ふるさとかるた」。子どもも学べるよう言葉を易しくしている

4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

数値目標	基準値	目標値
自治会加入率	93% (H26)	95% (H31)
65 歳以上の要支援・要介護認定を受けていない人の割合	84% (H26)	88% (H31)

(1) 地域コミュニティの強化をはかる

人口減少が進むと、自治会を中心とする地域コミュニティが衰退し、住民自治に支障が出るのが懸念されます。こうした認識を住民と共有のうえ、自治会の育成・支援を行います。

また、文化・芸術、スポーツ、生涯学習活動を支援し、地域コミュニティの活性化を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
田原本青垣生涯学習センター・弥生の里ホールの利用件数	4,374 件 (H26)	4,500 件 (H31)
町内の体育施設の利用件数	4,583 件 (H26)	5,000 件 (H31)

① 地域課題の解決を図る自治会の育成・支援

- ▶ 自治会活動を支援し、健全な発展を図ります。

② 文化やスポーツ等を通じた地域活動の支援

- ▶ 町内の文化施設における地域住民の自主的な学習、文化活動を促進します。
- ▶ 弥生の里ホールにおいて文化事業を開催し、芸能文化に触れる機会を住民に提供します。
- ▶ スポーツ教室やスポーツ大会を開催し、住民の参加を促すとともに、スポーツ団体を補助し、活動を支援します。

【主な事業】

- 自治振興事業
- 公民館学習事業
- 弥生の里ホール運営事業
- さわやか交流センター管理事業
- 社会体育振興事業
- スポーツ教室開催事業
- 青少年健全育成推進事業



青垣すまいるクラブの活動。パウンドテニスで良い汗を流す

(2) 誰もが安心して暮らせるまちをつくる

田原本町への定住のために、町が備えるべき安全・安心な環境を守ります。住民が、病気や犯罪に対し不安を感じる課題を解決していきます。

また、子どもから高齢者までが田原本町で健康で生きがいのある暮らしを送ることができるよう支援します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
介護予防サポーター・認知症サポーターの養成人数	32 人（H26）	800 人（H31）
シルバー人材センター登録者数	307 人（H26）	390 人（H31）
自主防災組織登録数	60 団体（H26）	87 団体（H31）
ＬＥＤ防犯灯への交換率	33%（H26）	100%（H31）
乗合タクシー「ももたろう号」利用者数	4,700 人（H26）	6,000 人（H31）

① 日常的な健康づくりや急病への対応など住民の健康支援

- ▶ 磯城休日応急診療所の充実と橿原市休日夜間応急診療所や、県が実施している救急安心センターダイヤル等の利用を住民に周知・啓発します。
- ▶ 一次救急か二次救急かの判断（さらに重症の場合は三次救急という流れ）について住民への周知と理解を図ります。また、桜井地区病院群輪番制病院運営事業や小児科二次救急輪番制の充実に向けて、県と連携していきます。
- ▶ 保健事業に伴う各種教室（ウォーキング、料理教室等）の開催、健康づくりの推進を支援します。

② 高齢者が生き活きとした生活を送るための支援

- ▶ 地域包括ケアを核として、地域の医療・福祉・介護など関係機関との連携を図りつつ、地域の高齢者を支援します。また、地域で高齢者を見守り、ともに支え合う地域ケア体制のしくみづくりを支援します。
- ▶ 自家用車を運転しない人の日常生活の足となる乗合タクシーを運営します。
- ▶ 磯城郡シルバー人材センターに対して運営を補助し、高齢者の希望に応じた就業機会の確保を図ります。

③ 防犯・防災体制の強化によるまちの安全の確保

- ▶ 公共施設に防犯カメラの設置等により、防犯対策を強化します。
- ▶ 自治会における自主防災組織の立ち上げ及び運営を支援します。
- ▶ 自治会の防犯灯新設及びＬＥＤ化を支援します。

【主な事業】

- 地域医療等推進事業
- 休日応急診療所運営事業
- 予防接種事業
- 健康づくり事業
- 包括的支援事業
- 磯城郡シルバー人材センター補助事業
- デマンド型タクシー「ももたろう号」の運行
- 自治振興事業（再掲）



消防出初式の様子。田んぼにめがけて一斉放水



町の防災無線設備。いざというときに住民に迅速に情報を伝達し、住民の安全を守る



食生活改善推進員の協力のもと、料理の仕方を学ぶ男性たち

田原本町まち・ひと・しごと総合戦略

平成 28 年 3 月発行

平成 28 年 8 月改訂

発行／田原本町 総合政策課

〒636-0392 奈良県磯城郡田原本町 890-1

TEL：0744-32-2901 FAX：0744-32-2977



奈良県
田原本町